**■専門部会からの報告**

**資料２**

**令和７年度　相談支援部会　報告書**

|  |
| --- |
| **第1回相談支援部会** |
| 日時：令和７年５月１日（木）　午前９時３０分～午前１１時３０分 |
| 会場：品川区役所第２庁舎５階２５３会議室 |
|  |
| 概要： |
| **１．地域自立支援協議会および相談支援部会について** |
| 地域自立支援協議会の設置目的や今年度のスケジュールを確認した。  　また、相談支援部会の位置づけの確認を行った。 |
| **２．地域生活移行に関する取り組みについて** |
| 地域生活移行に向けての取り組み状況や課題の共有  （１）取り組み状況  ・環境が整えば地域移行を検討できるのではないか？と相談を進めていた方。本人の身体状況に変化があり、療養型病院へ移行となった。  ・家族の仕事と住環境を整え、自宅への移行を予定していた方。  検討を進めていく中で家族に病気が見つかり中止となった。家族の回復を待って、再度検討の場を設ける予定。  ・施設近隣のグループホームを申し込んだが、入居できなかった方。  土地勘のある施設近隣のグループホームが空いた際は移行したいとの意向がある反面「施設での生活に慣れ、居心地が良い今の生活のままでも良い」という意向も聞かれている。  地域移行を行った方のその後について  ・児童福祉施設からグループホームへ移行した方。新たな場所での生活に慣れてきた為、移行当初のトラブルが減り、落ち着いて過ごしている。  ・区内障害者施設から兄弟が近隣に住む区外グループホームへ移行した方。計画相談支援もグループホーム近隣に移行したためその後の報告は特にない。  地域移行支援に向けて  これまで同様、サービス更新時、モニタリング時等、本人・家族・支援者に地域移行の希望についてその都度確認と説明を継続している。  来年度以降、障害者入所施設に配置される地域移行等意向確認担当者と連携して取り組みを進めたい。  （２）地域生活移行の取り組みを振り返ってみて感じた成果・課題について  ・取り組みを行ったことで、本人・家族、相談支援専門員自身も「どこで誰と生活を送るのか？」を考えるきっかけとなった。  ・言葉によるコミュニケーションが困難な場合は僅かな視線や身体の動きを読み取りながら本人の意向をくみ取る等、意思決定の在り方や移行の進め方を双方で工夫しながら支援することができた。  　コミュニケーションの取り方について考える機会となった。  ・グループホームや区内にある体験室の積極的な活用を行い、施設以外の場所での生活を考える機会を作ることが大きな意味を持った。 |
| **３． 高次脳機能障害に関する取り組みについて** |
| （１）失語症者向け意思疎通支援事業について  　　前回話が挙がっていた、意思疎通支援事業について東京都で行われた研修  　資料をもと説明した。今後、品川区でのニーズ把握に努める。 |
| （２）グループワーク  　　前回のグループワークテーマで出た地域課題について、意見・課題点を振  り返った。  また、区内の既存の社会資源を活用し、具体的に取り組めることを話し合い、各グループから発表した。 |
| 1. グループワークで出た意見   具体的に取り組むこと  ・就労継続支援B型事業所の支援員を集めて、高次脳機能障害について知る機会を持てるようにしてはどうか。  ・区内３か所ある、地域活動支援センターの活用。それぞれで取り組んでいる高次脳機能障害者の方向けの取り組み内容を共有し、３か所で共同作業を行えないか？具体的に取り組みを進めている。 |
| 課題  ・３０代～５０代と働き盛りの世代に発症することが多く、家族も日中就労していることが多い。年齢的にも介護保険の対象外となる方も多い。高次脳機能障害を持つ方の受け入れ先が増えることが必要。  ・就労移行支援を利用して復職を希望しても、復職ができない、その先の支援が見つからないことが多く、支援が切れてしまい埋もれてしまう方々がいる。  ・日中利用先があったとしても、送迎が無いと通えない。送迎付きの就労継続支援B型が区内にはほとんど無い。他区の事業所を利用する例もあり、情報が欲しい。  →就労支援部会にて、相談支援部会の取り組みの報告と高次脳機能障害の方の日中活動の受け入れ先が少ない状況の説明と受け入れについて検討する場を設けてもらうよう、調整する。  →送迎対応のB型事業所の開設情報等も部会で共有を行った。  ・高次脳機能障害を発症しても復職を希望する人が多い。専門的な情報が必要。  →相談支援専門員を対象にした研修にて、就労支援センターの取り組みや連携について学ぶ場を調整中。 |
| （３）次回以降について  　・グループワークで挙げられた具体的な提案について、実際に取り組んだ内  　　容を共有する。  　・復職に向けての支援・手続きについて学ぶ機会を設ける。 |
| 出席：部会長：品川区東品川障害者相談支援センター長  　　　　部会員：１．品川区旗の台障害児者相談支援センター  　　　　　　　　２．品川区東品川障害者相談支援センター  　　　　　　　　３．品川区南品川障害児者相談支援センター  　　　　　　　　４．品川区精神障害者地域生活支援センター  　　　　　　　　５．品川区発達障害児者相談支援センター  　　　　　　　　６．インクル南品川障害者相談支援センター  　　　　　　　　７．相談支援事業所スタンドアウト品川  　　　　　　　　８．福は家相談室品川  　　　　　　　　９．コプラス　相談支援事業部  　　　　　　　　10．パーソナルファミリーサポートセンター  　　　　　　　　11．ラシクラボコネクト東京  　　　　　　　　12．品川区中延障害者計画相談支援事業所  　　　　　　　　13．品川区東品川障害者計画相談支援事業所  14. 品川区大井第二障害者計画相談支援事業所  15. 品川区西五反田障害者計画相談支援事業所  　　　　　　　　16. 品川区八潮障害者計画相談支援事業所  17. 品川区荏原障害者計画相談支援事業所 |
|  |
| **地域生活移行に関する取り組みについて** |
| 1. 地域生活移行件数　９名（取り組み開始の令和５年４月～令和７年５月）  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | | 退所先 | GH | 自宅 | 高齢者施設等 | | 人数 | ６名 | ３名 | ０名 |   【GH入居した６名の状況】  ・６０代　未就学時より区外児童施設へ入所し、そのまま同法人成人施設を利用。同法人のグループホームへ移行。  ・１０代　区外児童施設から、区内グループホームへ移行。  ・５０代　４１歳で区外施設入所。同法人のグループホームへ移行。  ・６０代　胃ろうを造設し、医療的ケア対応のグループホームへ移行。  ・３０代　１４歳で区外児童施設へ入所し、退所と同時に区内成人施設へ入所。令和５年１０月頃から地域移行を検討し、令和６年６月区内グループホームへ移行。  ・５０代　令和５年８月地域移行を見据えたうえで、介護者不在のため施設入所。令和６年１２月グループホームへ移行。  【自宅へ移行した３名の状況】  ・４０代　区内施設へ入所していたが、家族の希望により品川区の実家へ移行。  　・５０代　区外施設へ入所していたが、家族の希望により品川区の実家へ移行。  ・５０代　区外施設へ入所していたが、家族の希望により品川区の実家へ移行。  ② 調整・支援継続中　５名  ・家族の意向確認・意思決定支援により具体的検討中　……２名  ・グループホーム申し込み等進めている　　　　　　　……３名 |